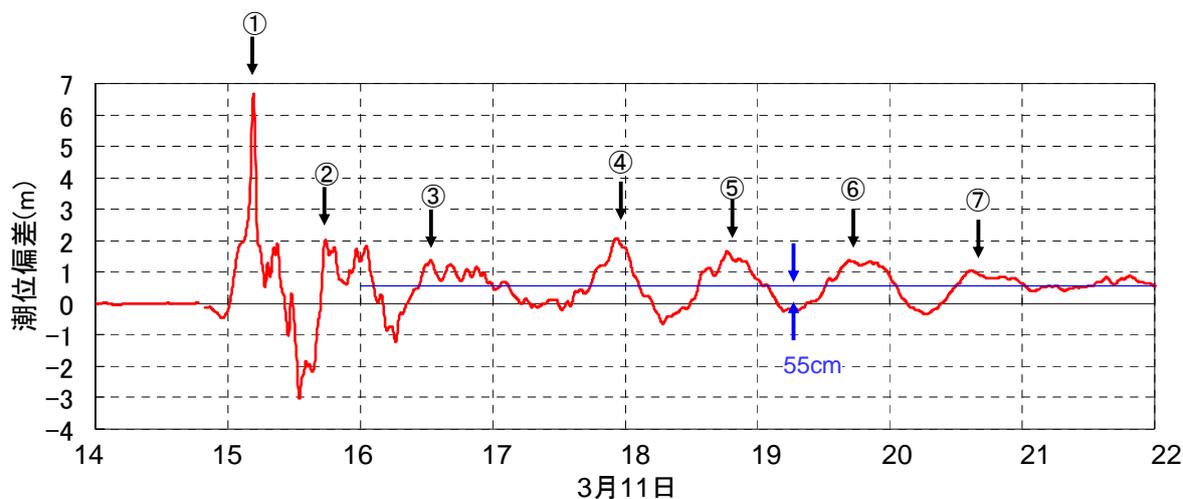
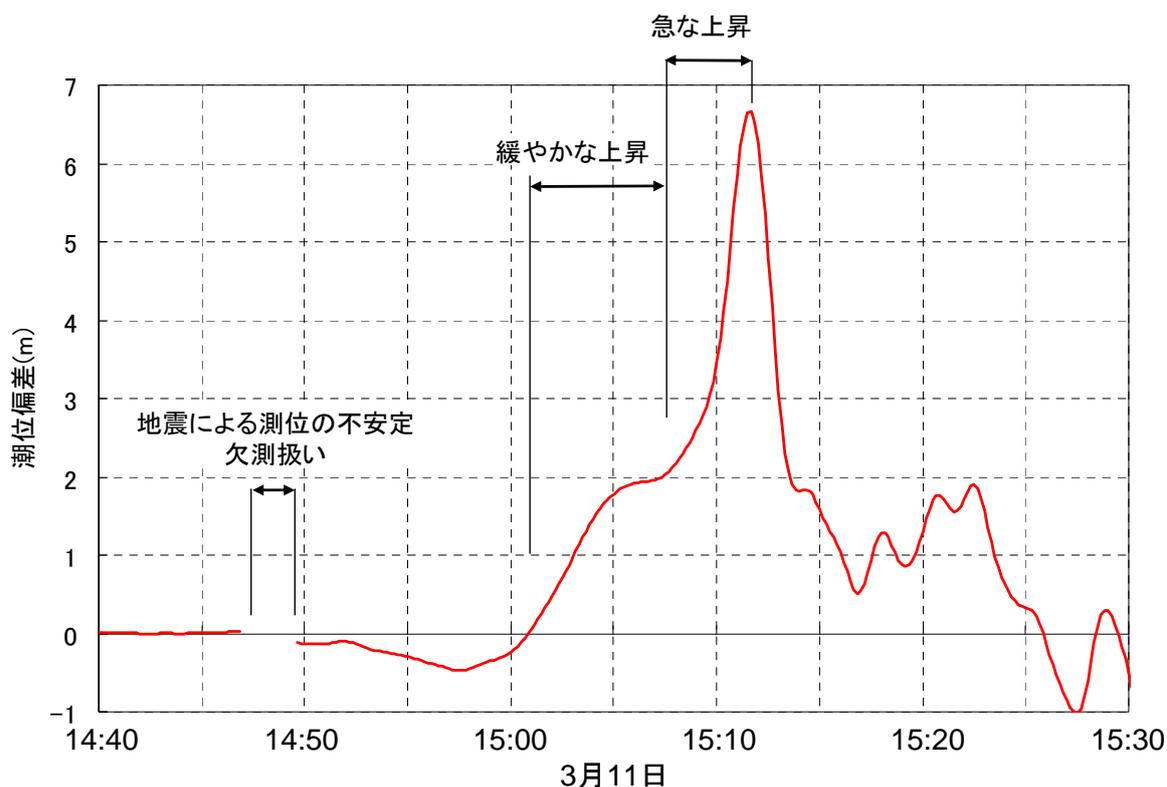


岩手南部沖GPS波浪計（釜石沖）による津波の観測結果概要

- ①地震発生前から13日（地震発生2日後）午前4時までの津波波形が得られた。なお、地震前に比べて、潮位の観測値が全体的に55cm程度上昇している。原因については検討中である。
- ②津波高さは、15時12分に記録した6.7mが最大である。なお、この高さの津波は、沿岸（水深15m）では13m程度に増加する。
- ③津波の峰の高さは、第1波が突出して高く、第2～7波において徐々に低くなった。第4～7波は第1～3波とは異なる形状で50分程度の周期の波が繰り返されている。
- ④第1波の波形を詳しく見ると、地震発生から15分後の15時01分から約6分間で2m程度上昇した後に、続く約4分間でさらに4m以上も急激に上昇した。この波形情報は、今回の津波の発生メカニズムを究明する重要な手がかりになるとと思われる。



図一 岩手南部沖GPS波浪計で捉えた津波の初期の波形



図二 岩手南部沖GPS波浪計が捉えた津波の第1波